

Professional Institute of International Fashion

国際ファッション専門職大学

共同研究「岩手県のホームスパン産業に関する研究」オンラインシンポジウム

「岩手県のホームスパン」

-その始まりから現在、未来-

2025.3.21 FRI

18:00 ▶ 20:30

参加無料

参加のお申し込みは、下記URLより受付中!

※QRコードからもアクセス可能です。

申し込みフォーム▶<https://x.gd/BTYss>



ホームスパンとは羊毛を手紡ぎ・手織りした毛織物で、岩手県の特産品です。日本のホームスパンは、大正中期に政府が農村の副業として綿羊飼育を奨励したことにより全国的に普及しました。しかし第二次世界大戦後、政策の転換などによりホームスパン産業は衰退し、現在は岩手県にのみ産業集積として残っています。手作業によるゆっくりとしたものづくりから生み出される柔らかな風合いや素朴な外観はホームスパンならではのものです。本シンポジウムでは、岩手県におけるホームスパンのルーツ、原料となる羊毛を生み出す羊と岩手県の関わり、そして岩手県のホームスパン産業に関わる県の支援事業の歴史に関して発表を行います。後半の座談会では、岩手県のホームスパンの魅力、産業の現在と未来に関する議論を展開します。

主催：国際ファッション専門職大学 共同研究「岩手県のホームスパン産業に関する研究」(2022年度～2024年度、代表：篠原航平)

Speakers



▶ 篠原航平

(共同研究代表・国際ファッション専門職大学教授)

中小企業診断士、実務家教員として、教職と並行し、中小企業の経営支援等を現在も継続。ジャパン・テキスタイル・コンテスト審査員等も担当。



▶ 山本佳典

(フリーランスライター/執筆・翻訳業)

1981年広島県福山市松永町生まれ。金光学園中学・高校を卒業後、上智大学に進学。2003年中退し、英キングストン大学にて学士課程(映画・芸術史)を修める。帰国後、専門誌記者など職を転々とした後、フリーランスとして活動開始。下総御料牧場や三里塚、牧羊史に関して取材調査を行う。2023年『羊と日本人』(彩流社)出版。



▶ 菊池直子

(岩手県立大学盛岡短期大学部名誉教授)

1978年日本女子大学卒業。同年、岩手県立盛岡短期大学(現在は岩手県立大学盛岡短期大学部)助手。講師、准教授、教授を経て2021年定年退職。専門は被服材料学、被服衛生学。2002年頃よりホームスパン服地の保温性能等の実験検証を行う。2011年頃より岩手のホームスパンの歴史に関する調査を行う。



▶ 猪又裕也

(ホームスパン作家)

旅する羊・代表。千葉県出身、杉野服飾大学卒業。2018年、岩手県雫石町へ移住しホームスパンと出会う。全ての行程が手から生まれるホームスパンに感銘し、中村工房に師事。2020年「旅する羊」を設立。羊毛そのままの無染色を中心とした作品づくりの傍ら、ホームスパンの背景のストーリーを伝える旅行商品の企画販売も行う。



▶ 宮浦晋哉

(共同研究員・国際ファッション専門職大学講師/株式会社系編代表)

2012年創業、株式会社系編代表。デザイナーズブランドのクリエイションのサポート、コンテンツ制作、テキスタイルの開発、輸出などを行う。2017年に繊維産地・テキスタイルについて体系的に学ぶ場「産地の学校」を開校。現在も年間200軒以上の工場を訪れながら産地の魅力を国内外に発信し、繊維・アパレル産業に貢献している。

Program

- ・発表Ⅰ 篠原航平 - 岩手県におけるホームスパンのルーツ: 30min
- ・発表Ⅱ 山本佳典 - 岩手県と羊の関わり: 30min
- ・発表Ⅲ 菊池直子 - ホームスパン産業に関わる岩手県の支援事業の歴史: 30min
- ・座談会 岩手県のホームスパンの魅力、産業の現在と未来に関する座談会: 45min
質疑応答: 15min